

第 1 回 新 町 地 域 審 議 会

総合計画前期実施計画事業に係る質疑（質疑なし）

報告事項に係る事業の質疑

事業名	No.	質 疑	回 答
烏川運動場水洗トイレ建設事業	1	烏川運動場水洗トイレ建設事業について、夕方など遅い時間に利用した場合の防犯面の対応はどのようになっているか。	新しく設置されたトイレは、夜間照明はもとより、非常用のブザーも設置されている。非常時には、そのブザーを押していただき、近くにいる人に知らせるなどの対応となっている。

その他の質疑

内容区分	No.	質 疑	回 答
新市建設計画後期重点事業の推進状況について	1	前期の重点事業については、順調に進んできているが、後期の事業である、住民体育館の建替え事業、児童館の建設、第二小学校区の公民館の整備など、その他にも色々あるが、現在の検討状況など、どのように考えているか。	後期の事業については、前期同様、総合計画に基づき、本庁所管課と協議・調整を行いながら、計画通り推進していきたいと考えている。
県道藤岡大胡線拡幅事業について	1	県事業である、主要地方道県道藤岡大胡線（新町郵便局から新町中学校まで）の拡幅事業について進捗状況はどのようになっているか。 また、県有地の今後の利活用について、どのように考えているか。	主要地方道県道藤岡大胡線の拡幅事業については、毎年、積極的に事業推進をお願いしている。 また、県有地についても、有効活用の推進をお願いしている。 両事業とも、県との連絡を密にしながら、積極的に推進していきたいと考えている。

内容区分	No.	質 疑	回 答
新町つくし団地周辺道路整備について	1	<p>市営住宅新町つくし団地の建替え事業に関わる、周辺道路の整備事業について、新町つくし団地からいちょう並木通りに抜ける道路の幅員が2.5mと狭く、消防車や救急車など緊急車両の通行が困難であるため、道路の拡幅を実施することであったが、その後の進捗状況は、どのようになっているか。</p>	<p>市営住宅新町つくし団地から、いちょう並木通りに抜ける道路については、幅員6.0mへの拡幅整備を計画し、地権者と約3年間用地交渉を重ねてきたが、協力を得られない箇所があり、現在、事業を中断している。</p> <p>この事業については、地権者の協力がないと進められない事業であるので、時間をかけて、進めていきたい。</p>
新町地域の防災・水害対策について	1	<p>3月11日の東日本大震災は、想定外の地震と津波で、多くの犠牲が出てしまった。</p> <p>新町地域においては、烏川や神流川など河川に囲まれている地域であるため、地震の被害よりも、水害が起きる可能性が極めて高いと考えている。</p> <p>そのような状況の中で、避難訓練、避難場所、備蓄品など、新町支所として、どのような対策を講じているのか。</p> <p>また、避難訓練など具体的に決まっているのか。</p>	<p>新町地域は、烏川、神流川、温井川と三方向を河川に囲まれている。そのような状況であるため、平成21年度に、「高崎市洪水ハザードマップ」を作成し、全戸に配付している。</p> <p>そのハザードマップによると、烏川上流において、過去におきた台風の三日間の雨量、377mmを記録すると、堤防が決壊し、新町地域の3分の2が、50cmから5mの浸水地域になると考えられている。</p> <p>そのような状況なので、標高の高いJR高崎線の南側の新町第二小学校を避難場所として指定している。</p> <p>また、備蓄品については、水、食料、粉ミルク、紙おむつ、毛布など日常生活用品は、水防倉庫、支所などに備蓄している。</p> <p>今後も、本庁所管課と協議・調整を行いながら、防災面での万全な体制を整えたいと考えている。</p> <p>なお、消防、町内会など各種団体と避難場所の確認、避難方法など勉強会を開催しており、6月5日(日)には、新町第7区をモデル地区として、水害を想定した避難訓練を実施する予定である。</p> <p>内容は、区長を中心に、要援護者11名をみたて、その方を支援する者35名の体制をつくり実施する。それに伴い、支所においても災害対策本部立ち上げの仮想訓練、避難誘導する場所の確認、避難場所の鍵の開閉などを実施する予定である。</p> <p>訓練の実施経過を見ながら、問題点、課題などを見出し、今後の更なる防災体制の充実を図っていきたい。</p>

内容区分	No.	質 疑	回 答
新町地域の防災・水害対策について	2	これから、台風シーズンに入るので、しっかりとした体制を築いていただきたい。 消防団も、協力体制を築き、市と連携を取りながら、地域のみんなですべて防災体制を考えていきたい。	災害については、自分の命は自分で守るという「自助」、情報提供、避難誘導などの「公助」、地域で助け合う「共助」の3つの「助」が基本となるので、関係機関や地域のみなさんと協力して、防災体制の確立を目指したいと考えている。
	3	新町地域において、「自助」の出来ない、一人暮らし高齢者や身体の不自由な方は、大勢いると思われるが、その人達に対して、どのような人員配置でどのように救助を行うかなどの具体的な計画は出来ているのか。	現在のところ、具体的な計画は出来ていない。 本庁所管課と速やかに協議を行いたい。
温井川河川改修工事について	1	温井川の河川改修工事について、どのような工事で工期はどのくらいなのか。	この工事は、川の水を流す能力を向上させるため、温井川の川幅拡幅と河床の掘削工事を行い、30年に一度の大雨でも洪水・氾濫を起こさない構造とするものである。 工期は、平成22年12月4日～平成23年6月30日で、総事業費約4億5千万円、発注者が、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所となっている。
新エネルギービジョンについて	1	高崎市地域新エネルギービジョンについて、2012年までに、1割、1万世帯への導入を目指すという、新聞報道等があったが、大変厳しい目標だと思うが、現在、何世帯位が導入されているのか。	助成制度を開始した2009年度の高崎市の補助実績は469件、2010年度は764件、合計で、1,233件である。今年度の補助枠1,125件を合計すると、2,358件となる。 助成制度開始前の導入世帯を600件と推計し、それを加えると、2,958件となるので、設置件数は今年度中におよそ3,000件に達するのではないかと考えている。
烏川運動場進入道路について	1	烏川運動場に進入する道路の幅員が狭く、マイクロバスなどが、入れない状況である。 利用者の利便を図るためにも、幅員の拡幅は必要だと思うが	事業の実施主体である、群馬県に対し道路幅員の拡幅を要望してきたところだが、今回、温井川河川改修に伴い、群馬県と協議したところ、現在の幅員3mから幅員5mへ拡幅し、烏川運動場への進入道路を整備する予定とのことである。